

第4回岩手県総合計画審議会 若者・女性部会

(開催日時) 令和8年6月18日(木) 13:30～15:30

(オンライン開催)

- 1 開会
- 2 議事
(1) これまでの議論(第1回～第3回)の総括
- 3 その他
- 4 閉会

出席委員

牛崎志緒部会長、佐藤柊平副部会長、西條匡杜委員、櫻井陽委員、山影峻矢委員

欠席委員

藤瑠杏委員、山屋理恵委員、吉田知世委員

1 開会

○菊池政策企画課特命参事兼政策課長 それでは、御案内しておりました13時30分となりましたので、ただいまから岩手県総合計画審議会第4回若者・女性部会を開会いたします。私、しばし進行役を務めます菊池です。よろしくお願いいたします。

まず、審議会の開催に当たりまして、会議の成立について御報告します。本日は委員8名のうち5名の御出席をいただいております。委員の半数以上の出席となりますので、若者・女性部会運営要領第6条第2項の規定により会議が成立していることを御報告いたします。

それでは、初めに県の中里企画理事から御挨拶申し上げます。

○中里企画理事 皆様お疲れさまでございます。今日もお忙しいところ、第4回若者・女性部会に御出席をいただきまして、誠にありがとうございます。

この部会も4回目ということになりました。これまでの議論では、若者の希望を後押しするために必要な視点ですとか、社会のあるべき姿などについて様々御意見をいただきましたところ。特に働き方ですとか定住観などに対する価値観の多様化など、そのほかやりたいことに安心してチャレンジができる環境づくりなど本当に様々な御意見をいただきまして議論を深めていただいたと認識をしております。

今日は第4回として、議論の総括を行うことができればと思っております。これまでの議論を県が取り組む施策の今後の方向性につなげていくため、改めて整理をしながらまとめていきたいと思っておりますので、本日もどうぞよろしくお願いいたします。

○菊池政策企画課特命参事兼政策課長 次に、議事に入る前に本日の審議の概要等について、事務局より御説明いたします。

○五十公野政策企画課主任 政策企画課の五十公野です。よろしくお願いいたします。

それでは、本日の部会の進め方などについて御説明いたします。資料は4ページを御覧ください。本部会の設置の目的、委員の構成については記載のとおりとなります。本日は、第4回としてこれまでの議論の総括を行いたいと思います。

続いて、5ページをお願いします。本日の審議の進め方ですが、これまでの議論の総括案について、初めに事務局から説明を行います。その後、委員の皆様から案に対する御意見をいただきたいと思いますと考えております。

本日の進め方についての説明は以上となります。

○菊池政策企画課特命参事兼政策課長 それでは、本日もよろしくお願いいたします。

以降の進行につきましては、牛崎部会長お願いいたします。

○牛崎志緒部会長 皆様、こんにちは。牛崎でございます。本日もどうぞよろしくお願いいたします。

今日、御欠席の方もいらっしゃるようですが、これまでの御議論がしっかり着地できるように皆様からまた様々御意見を頂戴したいと思っています。よろしくお願いいたします。

2 議事

(1) これまでの議論（第1回～第3回）の総括

○牛崎志緒部会長 それでは、議事に入りますが、初めに事務局から御説明をお願いしたいと思います。よろしいでしょうか。

○五十公野政策企画課主任 それでは、事務局より御説明させていただきますので、資料は7ページを御覧ください。まず、前回までの振り返りとしまして、第1回では地方創生10年間の成果と課題をテーマとして若者・女性を取り巻く現状認識を踏まえ、議論をいただきました。その中では、働き方や定住観など個人の意識や行動の多様化が進んでいること、また県外進学、就職後に岩手とのつながりが希薄化していること、さらに人口減少など社会構造の変化を踏まえた施策の検討が必要であるといった御意見がございました。こうした議論を踏まえ、希望の後押し、つながりの拡大、変化に適応するアプローチといった視点が施策の方向性として重要であるという整理となりました。

第2回では、一人一人の希望の実現をテーマに希望を制約する要因などについて議論いただきました。希望を制約する主な要因としまして、仕事や情報などの選択肢不足、地域社会や文化における生きにくさ、経済面やライフプランに対する将来不安などが挙げられたところです。また、「希望の後押し」に必要な特に重視すべき視点として、「つながりの拡大」、「変化に適応するアプローチ」というものがあるとともに、希望を後押しするためには、例えば挑戦ができるといった「可能性の拡大」に関する部分と失敗しても大丈夫といった「安心」に関する部分の両輪が不可欠であるというような御意見がございました。議論の中で様々重要な視点、キーワードを出していただきましたので、それらを体系化し、今後の議論を深めていくこととしました。

第3回では、希望が実現できる社会をテーマに希望を後押しする社会のあるべき姿について議論いただきました。主な意見としまして、多様な生き方や価値観が認められること、やりたいことに挑戦でき、失敗しても受皿があること、行政・企業・地域が若者・女性の価値観やライフスタイルの変化に対応できることといった重要な視点が示されました。

以上が前回までの振り返りとなりまして、これらの意見をまとめた議論の総括案が次ページ以降となりますので、8ページを御覧ください。ここでは、希望の後押しにおける現状・課題、それに対応する社会のあるべき姿について整理しております。現状・課題では、地元には「やりたい仕事がない」という認識が県外流出の要因となっており、県内で挑戦・成長できるイメージが十分に持たれていないという点が挙げられました。また、奨学金負担や低賃金、将来不安などを背景として、「やりたいこと」よりも「失敗しない選択」が優先される傾向があるという御意見や、結婚・出産・働き方などに関する固定的な価値観やアンコンシャスバイアスが個人の希望や選択を狭めているという課題も共有されました。こうした課題を踏まえ、社会のあるべき姿として、やりたい仕事や挑戦したい活動が将来の選択肢としてイメージできること、失敗しても生活が維持でき、安心してチャレンジできること、希望や価値観を大切にしながら多様な生き方・働き方を選択できることといった御意見がございました。

続いて、9ページを御覧ください。こちらは、希望の後押しに必要な視点の一つであるつながりの拡大について整理したものです。現状・課題では、県外進学・就職後に、岩手の情報や地域との接点が減少し、地元を選択肢として考える機会が少なくなっているということや、岩手の企業や地域情報が自ら探しに行かなければ届きにくく、知らないまま選択肢から外れてしまっている状況となっていること、さらに岩手で挑戦している人や多様な働き方、暮らし方のロールモデルに触れる機会が少ないといったことや、地域との関わり方が定住中心に捉えられがちで、多様な関わり方の受入れが十分ではないというような御意見がございました。これに対する社会のあるべき姿として、企業や地域の魅力が届けやすく、自然に岩手が選択肢として認識されることや多様なロールモデルに触れられること、さらに定住だけではなく、関係人口や副業など多様な関わり方が尊重されることといった御意見がございました。

続いて、10ページを御覧ください。こちらは、変化に適応するアプローチについてです。現状・課題としましては、人口減少が進む中で従来型の社会や働き方、地域運営のままでは持続が難しくなっているという認識が共有されました。また、若者・女性の価値観やライフスタイルの変化に対して、地域や企業側の受け止めが十分に追いついていないといったことや、ジェンダーや役割意識に基づく無意識の偏見、いわゆるアンコンシャスバイアスや地域における過度な干渉が生きづらさや戻りにくさにつながっているという点も課題として挙げられました。これに対する社会のあるべき姿としては、社会経済情勢や価値観の変化を捉え、社会全体で多様な生き方、働き方が受け入れられること、またアンコンシャスバイアスの気づき・見直しやジェンダーギャップの解消により、若者・女性が「生きやすい」と感じられること、さらに地域との関係性において、つながる安心感と干渉され過ぎない距離感の両方が大切にされることといった御意見がございました。

最後に、11ページを御覧ください。こちらは、社会のあるべき姿に関する様々な意見の中でも、特に共通項が多く議論の核となった部分について、若者・女性が特に重視してい

る視点として3点整理したものです。1点目が個人の選択や価値観を認め合う社会であること、2点目がやりたいことができる、失敗しても大丈夫な環境であること、3点目がアンコンシャスバイアスの気づき・見直し、ジェンダーギャップの解消というような整理としております。

本日はこれまでの議論の総括案として整理した内容につきまして御意見を頂戴したいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

以上で事務局からの説明を終わります。

○牛崎志緒部会長 ありがとうございます。これまでの皆様からの御意見まとめていただきました。ありがとうございました。

それでは、皆様それぞれから御意見をいただく前に一旦ここまで事務局の御説明に対して何か御質問がある方いらっしゃいませんか。よろしいですか。

では、本日事務局からいただいたまとめ案ありましたけれども、この案に対する御意見、そしてこれまでの部会の感想など、本日が最後の会ということになりますので、皆様から改めてお一人お一人からお話を伺っていきたいと思います。

恐れ入りますが、では名簿順に西條さん御準備よろしいでしょうか。大体5分程度で御発言をいただければと思います。今日は最後、皆様から御意見をいただく場がこれが最後になりますので、ぜひ全て言い切っていただければと思います。

では、西條さんお願いします。

○西條匡杜委員 お疲れさまです。西條です。

感想としては、「希望の後押し」という中での「つながりの拡大」というところをやっぱりもっともっと重視していくべきだなというのはすごく感じましたし、この3回通してどうしても首都圏にいと分らない、人が流出していつてしまっている事実だったりというのに対して、地域がすごく危機感を覚えているということも感じてきた中で、やっぱり首都圏にいる身としてどういうことが必要なのかなと考えたときに、つながりの拡大、情報の接点だったりとか、あとは変化に適応するアプローチだったりとか、そういうのを外の地域に今住んでいる方だったりとか、潜在的にちょっと興味はあるけれども、情報の接点がなさ過ぎて分らないなという人たちに伝えていくという施策を重視していくのが今後10年間岩手県が発展していく中では大事なのかなとすごく思いました。

最近、大学院の講義で郊外住宅地の人のがつながりがとても浅いという講義を受けていまして、確かに自分も千葉のいわゆる郊外に住んでいるのですが、田園地帯、田舎ほど人のがつながりは本当に顔が分かる程度でしかなくて、人のがつながりがすごく浅いと思う一方で、一回僕は地方インターンで葛巻町にお邪魔したときに、人のがつながりをすごく感じていて、当時ひとり暮らしを横浜で始めたばかりの自分にはすごく温かくていい場所だなと思ったのを覚えていて、岩手というのはそういうきてくれた人を温かい気持ちにさせるポテンシャルがすごくあるとずっと感じていて、なのでこういうすごく魅力的な土地があるのだよというのをいろんな人に知ってほしいなと、県外在住ながら思いますし、その解消案というか、解決策として、やっぱりつながりの拡大、特に情報の接点を増やすというような重視する点を書いてくださったことは参加してすごくよかったなと、頑張っ

いただきたいなと思いました。以上でございます。

○牛崎志緒部会長 ありがとうございます。西條さん、絶賛就活中だと思うのですが、重視する視点の3つ見ていただいて、西條さん、これがあったら岩手に就職したいと思いませんか、今。1日目に私は西條さんに同じ御質問したのですが、これがあったら西條さんは岩手に就職してもいいかなと思いますか。

○西條匡杜委員 ずっと首都圏で働くというよりは、僕はもともと地方の方に住んで貢献したいなという気持ちをずっと持って就活していて、今実際いろいろ会社を見始めましたが、就活すればするほどそういう地方に自分は貢献したいという軸があるのだなというのを感じましたし、もし御縁があるのであれば岩手に住んでみたいなという気持ちはこの会議を通してまた深まってきたなと感じております。

○牛崎志緒部会長 何か愚問でした。ぜひ様々な選択肢があるかと思います。そんな選ばれる県になれるように私たちも頑張りたいと思います。西條さんありがとうございます。
では、西條さんに続きまして、櫻井さんお願いいたします。

○櫻井陽委員 よろしくお願ひします。1回目から3回目を通して、先ほどまとめたいただいた資料の中身については、本当にそれぞれ話してきたことがまとまっているかなと思いました。特に個人の選択や価値観を認め合う社会というのも生きづらさというか、地方というか、岩手に住んでいるとそういったところに違和感を感じて出てしまうとか、外に出てしまうという話も聞こえてきていましたし、あとは岩手に帰って来るとしたら、何ができれば帰ってくるかというところで、やりたいことができ、失敗しても大丈夫な環境というところも挑戦を支援して下さるような環境があるというのはすごく大事なかなとは思いました。

そういったちょっと生きづらさみたいなのところの解消というところで、ちょっと私が少し疑問に思っているというか、これは別に書いてある内容が云々という話ではないのですが、「アンコンシャスバイアス」という言葉が普及が難しいのではないかと感じていて、結構言葉が行政関係の仕事というか、そういうのに近い仕事をしている方は分かる言葉かなと思うのですが、この言葉を県の政策とかに反映していくときにこの言葉自体を普及させていくこと自体が難しいので、意味が伝わらないというか、もうちょっと本当に「無意識の偏見」と翻訳はされるのですが、それでも全然そっちの方が伝わるのではないかなとか思ったりもしますし、あえて難しい言葉を使わずに伝えていかないと、この偏見みたいなものをなくしていけないのではないかなと感じているところであります。

「ジェンダーギャップ」という言葉はまだ浸透してきている言葉かなと思うのですが、でも、「アンコンシャスバイアス」という言葉は浸透しているのかなというところがちょっと私としてはありまして、業界関係者は知っている言葉かなと思うのですが、一般市民の方にあまり浸透していないような印象を受けるので、こういうのが例えば総合計画とかに書いてあったとしても、直感的に伝わらないというか、調べないと伝わらないみた

いなどころになってしまうともったいなと思いましたので、そういった言葉の表現とかを直していただけたらいいのかなと思っています。

内容自体は、本当にきれいにまとめていただいていますし、これまでの議論を踏まえた内容になっているかなと感じております。

以上でございます。

○牛崎志緒部会長 ありがとうございます。「アンコンシャスバイアス」というこの言葉だけだと、様々な捉えられ方をするというのは確かに今メディアでも言われているところがありますよね。そういったところを確かに慎重に進めていく必要はあるのかなというところですが、櫻井さんにはいつも切れ味のすばらしいコメントをいただきました。いつも勉強になります。ありがとうございます。結局リアルで会わなかったから、いつか会いたいなと思います。

続いて佐藤柊平さんお願いします。

○佐藤柊平副部会長 社団法人いわて圏の佐藤です。今の中で何となくまとめられるものを今チャットの方にも流したところなのですけれども、ちょっと感じたこと3つございまして、まず事務局の皆さん、いろんな視点のあった議論をこのようにきれいにまとめていただいたといいますか、すばらしいお仕事をやはりされていらっしゃるなということを改めて感じる資料だなということを感じておりました。

その中で、御説明をいただいた上で総合計画の中にどこまで言及できるかという部分あるかと思うのですが、1つは今回の観点の議論をいかに社会浸透させていくかというところへの何か言及みたいなものがなされるとよいのかなと感じておまして、これというのは結局この中で非常に充実した議論だったとしても、それが組織、行政機関だけではなく、民間の各企業さんとか、地域の本当に団体とかコミュニティー、そういったところにどう浸透させていくか、それは私もクリアな答えをまだ持っているわけではないのですが、社会浸透させていくというところにまで言及できて浸透させる動きみたいなのところがこれからより重要になるフェーズなのかなと感じております。

その上で、希望を持った社会、希望を持って生きられるようにするために、日本財団の調査ですと、子供たちの自己効力感みたいなのが非常に先進国の中でも日本が極めて低いと、社会を自分たちが変えられると思うかどうかみたいなのので、やっぱりそういった設問に対して、「変えられると思う」と答えた子供たちが欧米とか諸外国だと70%、80%なのですけれども、日本は45%ぐらいとか、結構半分以下ぐらい、半分前後ぐらいになっていて、やりたいことを実現するというのは自分で今探求とか高校魅力化とかでやっているようなことも自分の人生をかじ取りできるような人が育っていくというところがすごく重要視されているので、これは非常に難しいテーマかもしれないのですが、教育の連続性みたいなのところをどうつくっていくか。管轄が市町村の幼保、小中というところと、県で管轄している高校、あと各大学ですね、そういった県教委と市町村教委との大きなベクトルの施策とか整合性を、言うのは簡単で、やるのは難しいと思うのですが、そういう人たちを育てていく、生まれてから社会に出るまでの連続性の大きな軸、ベクトルを共有していくということが今後の総合計画、若者・女性部会において議論した中身を体現していく上

ですごく重要になっていくのかなというところと、あとはやはりそれを子供たちだけにアプローチするだけではなくて、社会とか大人側の思考の柔軟性というか変容を促す、それは1つ目の今回の視点をいかに社会浸透させていくかみたいなのところに返っていく部分になるのですが、そういったことをちょっと感じたりしました。

あとは、この前の国勢調査のデータとかも私も発表されたやつを見て、生まれた子供が我々の代の3分の1だなみたいに思っていて、本当にかなりしんどい局面に10年後、15年後なってくると思う中で、既存の県であるとか、地方公共団体が取り組んでいる動きだけではなくて、民間側でもいろんな取組をよくしようという動きがあったりするので、例えば高校であれば教育委員会さんも関わっていただいているマイプロジェクトアワードというあれも実行委員会が、私も入っているのですけれども、高校生の探求学習の発表会を県立大で毎年1回300人、400人規模ぐらいの高校生が集まる大きい行事なのですが、そういった取組を、あれも手弁当でみんなやっていたり、あとはルーキーオブザイヤーという若手社会人にスポットライトを当てる、これも全国で今広がりつつあるのですが、東北で岩手が先行して弊社の方で今やっていたりもするのですが、スポットライトを当てて若手社会人の頑張りとかをみんなでたたえ合って、20代の業界、業種とか、地域を越えた横のつながりをつくるとか、その中で全国大会に送り出す人を選ぶとか、そういったことをやったりしていますし、今日いらっしゃっていないですが、関係人口だとわかつェスさんとか、いろんな首都圏の動きがあったりするので、この計画を行政、県だけのものではなく、もっといろんな人たちと共有して、いろんな主体がこの計画のこの部分を担えそうだという部分を予算の有無は一旦置いておいて、こういった部分を担ってほしいとか、担えそうみたいなところとタグを組んでいく、民間の草の根的なアプローチ、パブリックサービスみたいな言われた方をしたりもするかと思うのですが、最近だと民間行政みたいな話とかもあると思うのですけれども、何かそういう規模が縮小する中で、民側で勝手に、ある種勝手にやっていることとちゃんと連動していくとより重層的な動きとか、お互いの情報共有とか、何かこころは一緒にやれると面白いね、みたいなこととか、県の施策としても有効に働きそうだね、みたいなところを予算の有無問わず県としても後押しいただいたり、その連携をより深めていただくみたいなことができるよいいのかなと思いますし、こういった計画がより体现されていくような社会になっていくのではないかなと感じたところでございます。以上です。

○牛崎志緒部会長 佐藤さんありがとうございました。議論の中でも自分自身が本当に中心になってやっているからこそおっしゃっていただける、そんな貴重な御意見をいただけたなと思っています。ありがとうございます。佐藤さんのこれからの活動もしっかりウオッチさせていただいて、応援していきたいなと思っています。ありがとうございます。

○牛崎志緒部会長

では、山影さんよろしくお願いします。

○山影峻矢委員 お世話になります。manordaいわての山影です。

まず、総括案については、これまでの議論を非常に分かりやすく整理されていると感じ

ました。ありがとうございます。

資料を拝見させていただく中で、「希望の後押し」という言葉が記載されておりましたが、単に前向きな挑戦を促すだけと捉えるのではなくて、可能性の拡大というところと安心の両面から整理している点というのは、これまでの議論が大きく反映されているところなのかなと改めて感じたところでございます。

その上で、私もこれまでの3回の中で何度かお話ししていた部分と重複するところはあるのですが、幾つかお話しできればと思っております。まず1つ目については、若者や女性に対して、岩手に戻ることに、そして定住することだけを求めるような見え方にならないことかなと考えております。実際、私自身も若い時期に県外に出た経験があり、県外に出ることは、岩手県内の若い子たちには自然な選択かなという考えもございまして、むしろ外で経験を積むということは私自身にとっても結構大切な機会だったのではないかなと思っております。その中で重要になってくることというのは人生の節目というのか、自分を見つめ直す中で、岩手がもう一度選択肢に入る状態をつくるということが大切かなと思っております。そのためには、「定住」という言葉だけによらず副業とか、関係人口とか、多様な関わり方を岩手側が受け止めることが必要なのではないかなと改めて感じたところでございます。

2つ目なのですが、これは第2回目ぐらいに私がちょっとお話しさせていただいた部分かなと思うのですが、岩手県内に選択肢がないのではなくて、見えない、知らないということを減らしていくということが重要かなと考えております。これは、1つ目にも重複するところではあるのですが、県外に出た後、節目、節目で考えていただく際に、自分から探しに行く人だけに情報が届くのではなくて、岩手の企業、地域の活動とか、そういった情報が自然に届け続ける仕組みみたいなものが今後重要になってくるのではないかなと思っております。県内企業の魅力ですとか、岩手で挑戦している人の姿みたいなことが見えることは岩手でもできるという自分の未来像につながる部分もあるかなと思うので、そういった部分を今後重要視していく必要があるのではないかなと思っております。

最後に、3つ目なのですが、受け入れる側の変化、これが一番重要なのではないかなと思っております。これまでのこの会議の中でも、私は地域の企業様の捉え方、見え方みたいなところも重要みたいなお話を何度かさせていただいていたと思うのですが、受け入れる側の変化、それは何なのかというところで、行政、地域の人々みたいなところも大きなパイとしてはあると思うのですが、やはり最初に目に入るものというのは転職とか、ある種企業というところが大きな一番の課題になってくるのではないかなと思っております。そういったところを行政が入っていくことによって、企業が変わりやすい体制を取ることによって、岩手が変わっていくという循環をつくっていくことが重要なのではないかなと思っております。それが結果的に岩手を選びやすくすることにつながるかと考えております。なので、今後こういった施策をつくっていく際にはUターン数ですとか、そういったものをKPIに置くのではなくて、関係人口の数もそうですし、県外から副業やプロジェクトで関わった数ですとか、そういった方々を受け入れてくれた企業の数ですとか、そういった途中のプロセスが見える化することが大切なのではないかなと考えております。

そういった生きやすさみたいな面では、地域のつながりによる安心感と干渉され過ぎな

いみたいなお話もこれまでであったかと思うので、そういったものを、この総括を理念だけで終わらせずに岩手が多様な選択を受け入れる地域になるための具体的な施策につなげていただければいいのかなと感じております。

私からは以上です。

○牛崎志緒部会長 ありがとうございます。随所にわたって山影さんのコメント、恐らく他の委員の皆様も恐らくはっとさせられるところあったかと思います。ありがとうございます。

私からも一言ですね。先ほど佐藤さんからのお話にもあったように、これまでの様々な意見をしっかりとまとめてくださいまして、ありがとうございました。佐藤さんからも、山影さんからのコメントから私もこの局面の是正には民間企業や組織文化、賃金等も含めていかにボトムアップできるかというところが若者の定着が進むポイントかと思います。

先ほど佐藤さんがお話ししてくださっていた、今回の観点というのをいかに社会浸透させていくかというところは、私もこの3つ重視する視点というのを向き合ったときに、これを自分が、例えば自分の夫にとか、あるいは自分の甥っ子、姪っ子にとか、どう説明しようかなと思って、自分でちゃんと内省して、自分で言語化できるように普通に価値観を認め合う社会なのだよというのは、言葉としては非常にすばらしいワードだなと思うのですけれども、それを「岩手ってどんな」といったときに、それぞれ一人一人が抱える背景の中で、この岩手が大事にしていることや、岩手にしかない魅力というのを伝えられるようになるので、ここに在る我々はきっと議論の中でそういったものを内省していくことはできてきたのかなと思うのですけれども、自分の身近な人から含めて同じような思いや感覚、あるいはそれが近かったとしても議論ができるような、そんな社会に、あるいは岩手にしていくというのはどうなったら実現するのかなと思ったりしました。

あと、重視する視点の中で、2点目ですが、やりたいことができ、失敗しても大丈夫な環境、まさにそのとおりだなと思う一方で、もう一つ付け加えていただくとすれば、その一歩前にやりたいことがないというのも一つ段階としてはあったりするなと思っていて、私も学生時代やりたいことがあったかなというところと甚だ疑問なわけですが、なので、やりたいと思えることが見つかるか、やりたいと思えることにつながる選択肢や体験ができるか、そこは佐藤さんからも「教育」というキーワードも出していただいていたけれども、そういった観点も一つ必要になるかもしれないと思ったりしました。やりたいことというのはなかなか難しいなと思ったりするので、そこはひとつ御議論させていただきたいなと思ったりしました。

私からは以上です。

それでは、今日修正意見がある場合というところで、最後に皆さんと残り僅かな時間ではありますけれども、1点ですね、最初櫻井さんから「アンコンシャスバイアス」という言葉について、この言葉の表現、もしかしたら何かしら言い換えができるのではないかなというような御意見もいただいたなと思っています。それ以外は、皆様様々御感想ですとか、あとはもう少し深掘りしたいというような、この先の岩手県あるいはそれ以外の民間も含めて考えていかなければいけないような示唆をいただいたと思っているのですが、1点このアンコンシャスバイアスに関するところですが、修正意見と私は捉えましたが、

何か皆様これに関して御意見ある方いらっしゃいませんか。委員の皆様いかがですか。

○佐藤柊平副部長 より分かりやすくというか、言い換えるとしたら何があるのかなみたいなことを思ったりもしたのですけれども。確かに社会浸透という意味で、でも県の方でもかなりアンコンシャスバイアスの是正に向けたフォーラムだとか、いろんな取組があるのは存じ上げているのですが、県との距離感が私たちは多分近い方だと思うので、一応情報としては入ってきていたりすると思うのですけれども、より普及性があるみたいところで、言葉を言い換えるのか、それともこれが普及するまでずっとやり続けるみたいなの、どっちなのかなみたいに思ってもいまして。

○牛崎志緒部長 そうですね。県内各所でこのキーワードというのは十分使われてはいる現状ではあるなど。いかがでしょうかね、無意識の偏見とか、無意識の思い込み、気づかない思い込み。ダイバーシティ文脈だと気づかない決めつけとかですね、そんなキーワードは出てきましたけれどもね。ついそうってしまうことということみたいな。

○山影峻矢委員 私から意見なのですけれども。その「アンコンシャスバイアス」という言葉によって、定義的に市民というか、県民に伝えたいという思いはあると思うのですが、これというのは定義まで提示しなくてもいいのかなと思っていて、もう一段下げて、「アンコンシャスバイアス」という言葉の中に入れたかった意味というのを中に入れてあげた方が分かりやすいのではないかなと思うのですが。

まとめていただいたアンコンシャスバイアスの気づきというテーマに至ったその前提をもうあるべき姿に入れてしまうのがベターなのではないかなと思うのですけれども。

○佐藤柊平副部長 この言葉を取り上げるに至ったその要素をとということですよ。

○山影峻矢委員 そうです、そうです。

○櫻井陽委員 議事録を読み返していたのですけれども、誰かが「アンコンシャスバイアス」という言葉、山屋さんは使っていたのですが、山屋さんも県でそういう施策をしているという言葉として使ったので、「アンコンシャスバイアスがありますよね」とおっしゃった委員さんはいなかったような認識なのですよ。山影さんがおっしゃるようなもう一段下げたというか、もう少しかみ砕いた何かをお話しされていて、それを要約すると「アンコンシャスバイアス」という言葉に変換されていたのかなと思ったのですけれども。

○佐藤柊平副部長 そうですね、要はこういうことですよみたいな、まとめるとこういうフレーズというか、言葉に言い換えられるというか、集約できるのではないかなみたいな部分が多分あるというところで、多分ワードが出てきているのかなと拝察しています。もう一段下げたというか、抽象化し切る、もうちょっと前の要素があると伝わりやすかったり、こちらの意図がより伝達しやすくなるのではないかなみたいなところですかね。

○牛崎志緒部会長　そうですね、ジェンダーギャップの解消というのが、ジェンダーギャップが少しあるとか、そこのプロセスにそれが少し含まれていたというところでは認識しているのですけれども、抽象化する言葉として今まで便利に使ってきたのだと、改めて思っていました。

○西條匡杜委員　1個いいですか。

○牛崎志緒部会長　はい。

○西條匡杜委員　10 ページかな、社会のあるべき姿で、アンコンシャスバイアスの気づき・見直しやジェンダーギャップの解消により、「生きやすい」と感じられると書いてあるのですけれども、ここもやっぱり使われているじゃないですか。そのうち、現状・課題よりも県民の方が一番気になるところというのは、それを解消されたときにどうなるかだと個人的には考えていまして。そうしたときに、気づいたり、見直したり、解消された結果、こういうことになりますよというのを抽象的になり過ぎない程度に書いた方が、今県の方は施策でこういうことをやろうとしているというのが伝わりやすくなるのではないかと個人的には考えた次第でございます。

○牛崎志緒部会長　そうですね、例えば一人一人が生きやすいとか、そういったところですかね。

本日佐藤さん、この後ですね、御予定がおありになると伺っております。

○佐藤柊平副部会長　すみません、一旦私はここで退室させていただくのですが、あとは皆様にお任せいたします。言いたいことは言ったといいますか、共有したいことは共有したので、申し訳ありません。ちょっと半端な参加になって申し訳ございませんが、引き続きよろしくお願いいたします。

○牛崎志緒部会長　佐藤さんありがとうございました。

○佐藤柊平副部会長　申し訳ありません。よろしくお願いいたします。

○牛崎志緒部会長　はい、ありがとうございます。

今西條さんからもお話いただきましたが、どうなっていることが県民が望むところであるのかということですね。事務局の資料ですと、若者・女性が生きやすいと感じられるというキーワードも書いていただいていますけれども。

○櫻井陽委員　あるべき姿の方は言葉としては思いつかなかったのですが。

○櫻井陽委員　こうあるべきという、固定観念というのですかね、固定観念がない社会、こうあるべきみたいなものがあること自体が皆さんというか、若者・女性もそうですけれ

ども、地域の人たちも含めて、何か嫌だなと思っている要素なのではないかなと思っています。男はこうだみたいなのか、女性なら、お母さんはこうあるべきだとか、そういうこうあるべきというものがない社会なのかなとは思いましたけれども。

○牛崎志緒部会長 1番とも通じるころではありますよね、価値観を認め合う社会というところは、そうなのですよ。

このアンコンシャスバイアスに関する気づき・見直し、そしてジェンダーギャップの解消というこの3点目になるのですけれども、議事録等も見直していただいた上で、例えばこの修正の御意見について、事務局の皆さんに一旦お預けするということではいかがでしょうか。はい、ありがとうございます。

この場では収まらないぐらいの非常に大事なポイントなのかなと思いました。一方で、先ほど申しましたが、「アンコンシャスバイアス」というキーワードですね、本当にここ数年、県の施策の中でも随所で入れていただいている言葉ではあると思いますので、例えば何かしら、それってこういうことだよねというのが分かりやすく表現されとか、注釈をつけるほどでもないけれども、そういった表現の工夫などでカバーできる方法もあるかと思うので、ぜひ御検討いただければと思います。事務局の皆様をまた悩ませてしまいますけれども、自由に発言をさせていただきました。ありがとうございます。

それでは、皆様から議事も出まして、佐藤さんは退室されましたので、少しずつクローズしていこうかなと思います。委員の皆様いかがでしょうか、もう少しこの辺りお話ししておきたいなというところはございませんか。よろしいでしょうか。

○櫻井陽委員 追加の話でごめんなさい。終わりそうなところを掘り下げてしまってあれなのですけれども。

○牛崎志緒部会長 櫻井さんありがとうございます。

○櫻井陽委員 先ほど佐藤さんですとか、山影さんがおっしゃっていたようなことを考えると、今「現状・課題」、「社会のあるべき姿」で整理されていると思うのですが、例えばこういう具体的な実行パターンがありますよというような具体例があった方が、このあるべき姿ですとかイメージしやすいのではないかなと思ひまして。これまでの議論でこういう方法、こういうあるべき姿があった方がいいよねという話の中で、具体的にはこういうことをすればいいのではないですかみたいな意見が出ていたと思うのですけれども、そこはちょっと肉づけしてあげると、「社会のあるべき姿」が今きれいにまとまっていますので、これを初見で見た方にとっては、分かりやすいかと。

○牛崎志緒部会長 そうですね、ここに集約されたなということですね。

○櫻井陽委員 プロセスを経ているので、分かるのですけれども、プロセス経ていない人が初見で見たときに具体例が書いてあると、ああ、それをイメージしていたのねと分かるような気がするので、山影さんがさっき情報が届いていないというか、選択肢はあるのだ

けれども、情報が届いていないということ自体は、この資料の中だとちょっと読み取れないというか、ニュアンスが伝わらないというか、そういった感じがするので、別にこの政策をやってくださいという意味ではないのですけれども、こういうアイデアがありますよねみたいなので、もう一つ右側に書いてもいいのかなと思ったところです。

○牛崎志緒部会長 ありがとうございます。そうですね、これまでのプロセスの「社会のあるべき姿」といったところにもヒントが多々あるなと思うのと、あと幸福白書、ここに取り組とか、いろんな事例を載せていただいていたりでするので、こういったまとめ方も一つあるのかなと思いました。これは、先ほど民間の参画というのがやはり大きくキーになってくるというのは本当にそのとおりだなと思いますので、その方向性を示す何かしらヒント、手がかり、あとは事例になるようなものが補足的にあるとよいのではないかというところを櫻井さんから頂戴しました。ありがとうございます。そのとおりだと思います。私たちは、プロセスを一緒に経てきたので、この3つのキーワードでと思っているかもしれないですけども、確かに初めて見た人がそれを裏側まで読み取れるということも含めて考えていく必要があるのかなというところですね。

事務局の皆様、この重視する視点とか、あとはこれまでのあるべき姿といったところを県民の皆様にお示しする機会がありましたらその点も含めて御検討いただければと思います。櫻井さんありがとうございます。

そのほかよろしいでしょうか。皆様、今日も非常に充実した時間を過ごすことができました。大変ありがとうございます。御協力いただきまして、ありがとうございます。

それでは、議事は以上となりますので、私の進行は事務局にお返ししたいと思います。ありがとうございました。

○菊池政策企画課特命参事兼政策課長 牛崎部会長どうもありがとうございました。

3 その他

○菊池政策企画課特命参事兼政策課長 次に、次第の3でございます、その他、何かございましたら、全体を通してございましたら御発言お願いいたします。いかがでしょうか。よろしいですか。

(なし)

○菊池政策企画課特命参事兼政策課長 ありがとうございます。

それでは、本日委員の皆様からこれまでの部会の総括などについて御意見を頂戴いたしました。御議論いただいた内容につきましては、7月27日に総合計画審議会の開催を予定しております。これまでの議論のプロセスも含めまして、本日の資料をベースにしながら総合計画審議会の方に報告させていただきたいと考えております。

今後でございますが、これまで本部会でいただいた御意見も踏まえまして、県が策定する計画ですとか、施策の方向性などに生かしてまいりたいと考えております。

また、この資料でございますが、先ほど御意見いただきましたとおり、例えば「アンコ

ンシヤスバイアス」の表現ですとか、あるいは具体例を盛り込んだ方がいいのではないかとといった御意見いただきましたが、そちらにつきましては事務局の方で検討いたしまして、また皆さんに共有、御意見をいただくような形とさせていただきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

これまでこの部会は4回開催してまいりました。本日がまず一区切りということになりますが、今後も計画策定していく中で御意見をいただく、お力添えいただくこともあるかと思しますので、その際はよろしくお願いいたします。

4 閉会

○菊池政策企画課特命参事兼政策課長 それでは、以上をもちまして第4回目の部会を終了いたします。誠にありがとうございました。